

平成 25 年度全国生涯学習センター等研究交流会を実施しました

<6月6日(木)~7日(金)>

今年度も、センター機能をもつ大学の関係者と都道府県等のセンターの職員等が参加し、センター等に求められる役割を確認するとともに、「活力あるコミュニティ形成と絆づくりにむけた学習環境・協働体制」を整備する方策について協議し、理解を深めることを目的に実施しました。全国の自治体から 60 名、大学から 23 名の参加者がありました。

講義

「生涯学習センターに期待される役割」

滋賀大学社会連携研究センター教授 神部純一講師

大学のCOC構想について触れていただきながら、大学や生涯学習センターの役割について改めて認識するご講義をいただきました。また、都道府県や大学等のセンターが地域の核となるべきであるというご示唆もいただきました。

【参加者の感想】それぞれのセンターのもつ役割と長所（強み）を出し合う連携、協働の必要性がわかりました。



事例研究

「多様な人材・団体との連携による学習機会提供の実際」

コーディネーター：広島経済大学准教授 志々田まなみ講師

登壇者：公益社団法人相模原・町田コンソーシアム総務担当理事 古矢鉄矢講師

生涯学習センターが、地域や大学と連携している事例をもとに、地域における生涯学習センターの役割について考える時間とした。古矢講師からは、さがまちコンソーシアムの事例として、大学生が地域づくりへ参画している事例、志々田講師からは、大学と生涯学習センターが連携した事例を発表いただき、特に、連携・協働の仕組みを構築することが重要であることをお話しいただいた。

【参加者の感想】センターと大学の関わりについてお話が伺えてよかった。また、プラットフォームの話が興味深かった。地域のもつ強みを存分に活かすことの大切さを感じました。「さがまち」コンソーシアムのパワーを感じました。



講義・

グループ協議

「地域との連携の可能性」

香川大学生涯学習教育研究センター准教授 山本珠美講師

講義では、地域と連携するために各センターは、「住民ニーズを把握すること」「情報を蓄積すること」が大切ということをお話しいただいた。

グループ協議では、「住民ニーズの把握の仕方」、「情報としてはどのようなものを蓄積すべきか」について協議し、その後、協議をもとにアンケートを作成する演習を行った。

【参加者の感想】参加型のグループ協議であり、様々な立場の方の意見等を聞くことができ、とても参考になった。「顔が見える関係」一番大切なことだと思いました。また、エネルギッシュなお話に感銘を受けました。



～講座における、学びとつながりが、各地域で活かされますように～